

## 北アルプス：槍ヶ岳

◆日程 2022年6月13日(月)～16日(木)

◆メンバー L：IZ、他

新婚旅行もやっぱり雨であった。今までの傾向からそんな予感ではしていたので山は避け小笠原諸島を検討したものの休みが足りず(船便の関係で最低6日間必要)、山なら槍!と計画した。結果的に、一日停滞して粘ったものの悪天で穂先には上がらず肩往復となった。また来ればいい、例えば銀婚式のころ、小屋泊まりならこれるかな・・・いやどうだろう・・・と今後のことを話しながら歩いた。

6月13日(月) 天候：晴

週の半ばは天気が悪いものの、4日目・予備日の5日目まで粘れば登頂のチャンスがあるかもしれない。そんな考えで予定通り出発。徳沢にはサルがたくさんいたがテントまで近づいてくることはなかった。

CT：(沢渡駐車場経由) 上高地 BT14:45 - 明神 15:30 - 徳沢 16:25

6月14日(火) 天候：晴れのち霧、風雨

徳沢を出たわれわれとすれ違う形で、横尾方面の森からサルたちがつぎつぎやってくる。生まれたての子ザルを首からおなかにしがみつかせているのもいる。どこを目指しているのか、朝の集会でもあるのか。不思議な光景だった。

横尾までの道は整備中とのことで、梓川を渡り新村橋の近くを通るう回路となっていた。距離的にはやや増えるが、アップダウンがあまりなく時間はさほど変わらなかった。

ババ平辺りから登山道わきに雪が見られ、曲がり沢でアイゼン装着、雪道にはクラック数条があり注意して歩いた。殺生小屋下の分岐で露岩となり外した。

当初1時間歩いて10分休むとしていたのが、そのうち30分歩いて20分休むとなってくる。肩についた時点で雨に濡れ高度の影響もあり、ふたりとも疲れ切っていた。人気(ひとけ)のない槍ヶ岳山荘では「こんな日に登ってくる人がいるなんて」という顔をされながらおでんともつ煮を頼み食べながら作戦会議。がんばってテントで寝るよりもここは無理をせず、素泊まりで山荘に泊まろうと意見が一致。貸し切りで乾燥室に一番近い部屋を使わせてもらった。自炊室で炊いてくれたストーブがありがたかった。

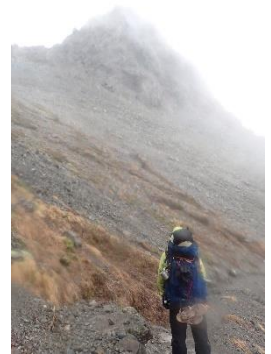
わたしはふだん二日酔いでもカキにあたっても、食欲に影響することはあまりなく食事がとれないということはまずないのだが、この夕はまったく食思がなくおそらく高度障害の一種と考えた。原因は前日から当日にかけ行動中のみならず全体的なカロリー不足、防水性のない手袋による体の冷え、水分摂取不足(飲んでいても高度があがると必要量はさらに増える)、久しぶりのテント泊なのに歩荷トレーニング不足、前々日まで2日間別の山行にいき疲れの蓄積・・・とたくさんあがった。暖かい甘い紅茶を飲み、コンソメの入ったスクランブルエッグを食べ、ようやく胃腸の血流が良くなったように感じ麻婆ナスピーマンなどの食事を取ることができた。

予定ではこの日の夕か翌朝登頂し、大喰岳方面・天狗原経由で下山にかかる予定だったが、もう一日チャンスをみることにする。

CT：徳沢 5:30 - 横尾 6:25/6:35 - 槍沢ロッジ 8:05/8:20 - 大曲 9:50/10:10

- グリーンバンド下 11:20/11:40 - グリーンバンド上 12:15 - 槍ヶ岳山荘 14:55

6月15日(水) 天候：風雨



一日停滞。

起きてみるとわたしの食欲はいつも通りだが夫は微妙に頭が痛い(いつものことだ)という。空咳をしているのも気になり水分をすすめる。小屋は引き上げ、8時テント場の偵察、10時ころ風弱まった隙を狙いテント設営。B区画という、晴れていれば槍が目の前の特等席、岩である程度風も弱まると踏んで張った。

結局風はほぼ弱まることはなくガスは晴れず。標高3000m、2畳ほどの狭小物件(水濡れあり)で一昼夜すごすということになった。ここで人生を語り合ったりすればいいのだが、酸素が薄いせいか混み入った話にはならずトランプの用意もなく、しりとり(山縛り、自然縛りなど)をしてすごした。自分がない語彙を相手が持っていたりで結構面白いものである。一日過ごすうちにふたりとも高度に関する自覚症状は軽くなっていた。

## 6月16日(木) 天候：霧のち晴れ

朝、期待しながらテントの外を見るもやはりガスで真っ白。穂先に登れないこともないが、眺望もない中そこまでして「登った」という事実にとどまることもない、と下山を決める。下りの苦手なわたしにとって最大の難関、グリーンバンドの急坂も控えておりあまりゆっくりもしてられない。



ところでこの朝、わたしはまぶたの浮腫で別人かというような顔貌をしていた(写真参照)。まあいいか、植村直己さんみたいな雰囲気もあるし・・・と勝手に納得したが、高度を下げていくとともに改善していき、上では雀の涙ほどだったおしっこがでるようになり、安堵した。

グリーンバンド下の急坂は、行きに「帰りここを下りるんだな・・・」と覚悟していたが、やはり下を向いてみると恐怖心があった。夏道に行くという手段もあったが斜度に慣れる格好の機会ととらえ、時間はかかってしまったものの、慎重にジグザグになんども折り返して通過することができ、挑戦してよかったと思った。天候が回復していることもあって登っていく人も少ないながらも、雪渓をいくのと夏道をいくのと半々くらいであった。

二ノ俣一ノ俣まで来ると空は晴れ流れは美しく、そういえばこんな新緑の時期にここを通るのは初めてだなと感じた。横尾から先は竜島温泉せせらぎの湯を楽しみに歩き、普段は通過するだけの明神で目玉イベントの嘉門次小屋のイワナをいただいた。

CT：槍ヶ岳山荘 6:30 - 殺生小屋下分岐 7:05/7:30 - グリーンバンド上 7:45 - 大曲 8:45/9:05 - ババ平 9:45/10:00 - 横尾 12:00/12:15 - 徳沢 13:15/13:30 - 明神 14:15/15:15 - 上高地 BT16:20

最後に熊情報。2021年9月、上高地で夜間にテントごと女性が引きずられたという事件が記憶に新しく、終始敏感になった。われわれの滞在中、6/12 12:30 明神梓川右岸、6/12 15:30 古池周辺と貼り紙があり、さらにすれ違ったソロの男性からは6/13 一ノ俣で親子グマ(!)が沢の水を飲んでいたのを見た、と聞いた。帰り道、出没情報の貼り紙は増えていなかった。

今回今までになく思ったように体が動かない実感があった。30代のころはマラソンと登山どちらも楽しみながら特別なトレーニングはせず本番のみで、「ランの練習が山、山の練習がラン」などと考えていたし多少仕事を押して寝不足でも乗り切っていた。しかし40代これから50代に向かう今、意識して鍛える・整える必要性を改めて感じた。この3年はクライミングのために始めた筋トレが面白く自分の中でブームとなっていたが、今後も無理なく続けられるよう、日常のなかにトレーニングのある生活とすべきと思った。登れるうちはそのようにのぼり、歳をとって登れなくなったら上高地帝国ホテルに泊まりに来よう・・・晩婚さんなりにそんな人生設計も語り合った。(記：IZ)